

## 明日への言葉

てんばになつても  
いやいや盲ひになつても  
こころしみじみ生きてゐたいと思ふ

この身、疫病みくづれる  
宿痾者、天刑者よ  
父や母にも呆られて

かくて、幾歳、寝台ヘッ下の上の繻帯達磨  
それでもなんでも生きてゐたいと思ふ

このひたぶるの心 この激しい慾求  
あはれ、赤裸なる人の世の心よ

死に行く運命さだめを厭ふにはあらねど  
はたまた いのちの果  
限りなき幸を希ふにはあらねど  
この身、このまま、  
一日は一日を産み  
明日もまたかくて

いのちの健在を心ゆくまで愛でたいと思ふ。

(昭和十四年「山桜」三月号)